

年賀状の準備

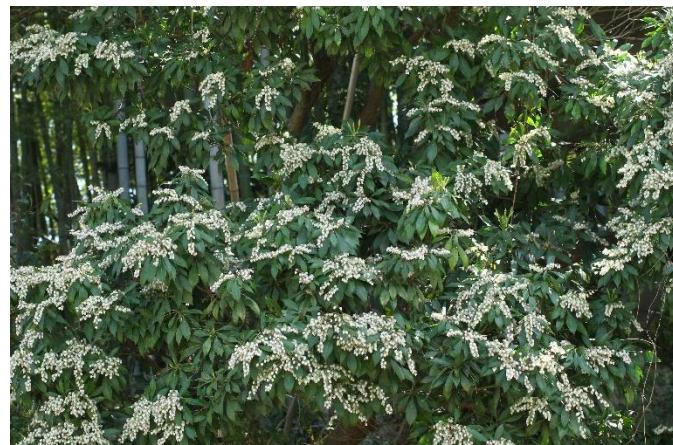
干支に因んだ図柄にするのを慣例にしていますので、来年の花をどれにするか思案中です。今はデジカメ、パソコン、プリンターの3種の神器があるので、古い写真のファイルから適当に選んで加工したら、あとはプリンター任せですから片手間仕事です。手書きしていた時代の重圧はかなり軽減されました。心を込めた手書きでなければ意味が無いと言われれば返す言葉に窮します。強いて言うなら自身の生存証明の為の年中行事かもしれません。お世話になった先輩方は高齢や闘病で賀状の交換を止めた方もあるので、返信の気遣い不要の文言を文中に入れるのも時代の流れです。



駒草 コマクサ



駒繫ぎ コマツナギ



馬酔木 アシビ



馬の足形 ウマノアシガタ



馬の鈴草 ウマノスズクサ



馬鈴薯 バレイショ ジャガイモ ポテト

紅葉と北アルプスが見たくて、はしご登山

1 霧訪山（きりとうやま）

1-1 ここでもクマ！？

11月上旬、朝早く茂原の自宅を出て、とりあえず日帰りで登れる山、ということで、今年の春に訪れた霧訪山を再訪しました。霧訪山は長野県塩尻市の南に位置する、標高1305mの低山です。

途中の道路ですれ違った地元の方が、最近中学校の近くに熊が現れたから気を付けて、と教えてくれて、一気に緊張が高まりました。



1-2 霧訪山の紅葉

塩尻市側登山口の山神自然園（標高約800m）からのコースは、春にはカタクリやイワウチワ、スミレ類などが見られますが、多くがヒノキなどの植林地であることと併せて、低標高なのでまだ季が早いのか、残念ながら紅葉は期待したほどのものではありませんでした。

下写真は、左からヒトツバカエデ、カラコギカエデ、ホツツジ（山頂付近）、と思われます。



1-3 北アルプスの眺め

低山にもかかわらず北アルプスや南アルプスの眺めが良い、と関連サイトに書いてありますが、その点は、ほぼ満足のいくものでした。

下写真は、山頂付近からの北アルプスの遠望です。中央付近最も高い頂が奥穂高岳、その手前に前穂高が重なっているようです。その右側は北穂高でしょうか。右隅寄りに槍ヶ岳が見えています。

南アルプスやハケ岳の眺めも良かったです。山好きにとっては、幸せなひとときでした。



2 鉢伏山

2-1 自然観察の大切さ

鉢伏山は、右写真のとおり、松本市の南、塩尻市の東に位置する、標高 1928m の山です。関東や中部地方で、この標高でこの時季 11 月上旬は紅葉がベストの筈！と確信して訪れました。何故確信かと申しますと、筆者の故郷静岡市安倍川源流エリアの山伏岳（標高 2013m）が、まさに、11 月上旬×標高 2000m（の中腹）＝ベスト紅葉！の方程式が当てはまるからです。

ある日のテレビで、京都の紅葉はもう少し先です、と言っていました。京都は房総と同様に、標高的にはほぼ平地ですから当たり前なのですが、大雪山の紅葉も奥日光や京都の紅葉も一緒に考へる視聴者が多いからの発言なのでしょう。事実を客観的に捉えようとしない傾向、ちょっとコワイ気がします。このようなところでも、自然（をしっかり）観察（して理解すること）の大切さが感じられます。



2-2 房総丘陵の自然のルーツ

下左写真は、標高 1500m 付近の尾根筋の紅葉でとてもきれいでした。赤はイロハモミジ、黄色はブナなど、茶色はミズナラなどと思われます。下中写真はハウチワカエデと思われます。

一方、下右写真は、ウリカエデと思われます。房総丘陵でもお馴染みのカエデ、房総丘陵の自然のルーツを思い起こさせてくれました。

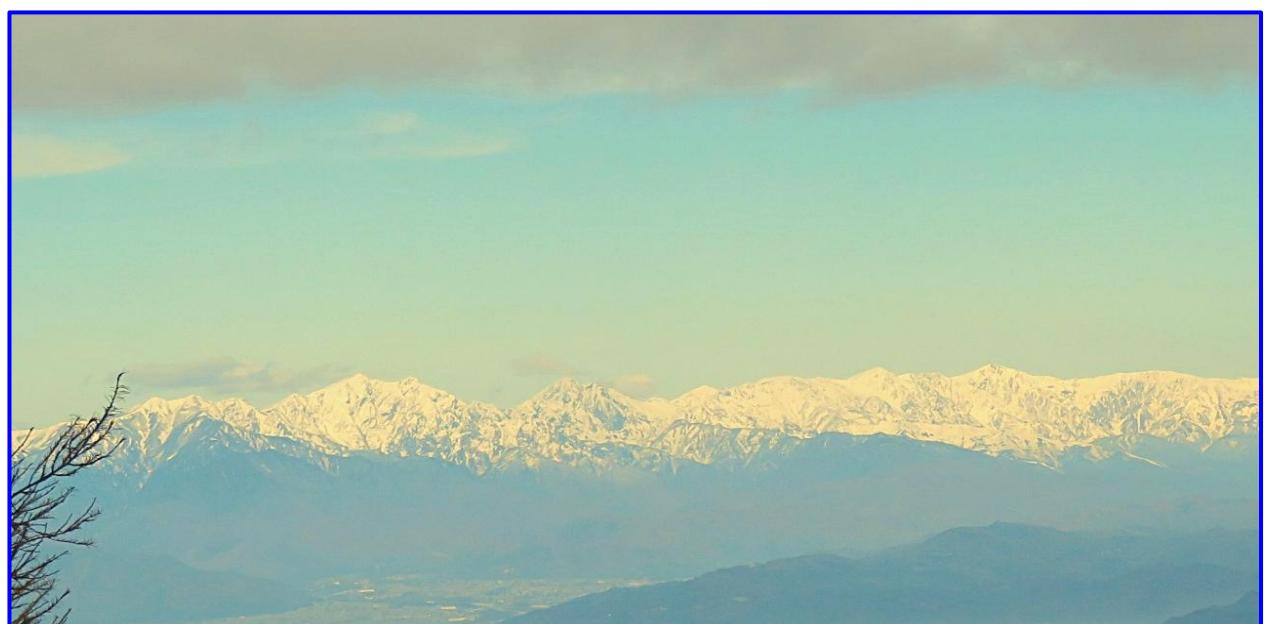


2-3 南岸に低気圧

下写真は、山頂付近からの北アルプス後立山連山の遠望です。左の双耳峰が鹿島槍ヶ岳、その右が五竜岳、右の高みが白馬岳です。

この日は、南岸に低気圧があって南側は一面雲に覆われており、日本海側の方が晴れていました。

（記：茂原市 望月力智）



雨とぬかるみとサトイモの葉

「残念だけど、雨が降っているので、ハンモックは釣っていないの。だからほかのもので遊んでね！」というと「この間やった竹馬は？」と応酬。「ごめんね、竹馬もお休みなのよ」「ふーん」といいながら、丸太を渡り始めました。「どん、じゃんけんぽん」とドン・ジャンゲームの開始です。元はといえば、陣地取りゲームから発した遊びで、丸太の両端から渡りながら歩いてきて、ぶつかったところでじゃんけんをして負けると元の陣地へ戻る。そうこうするうち、相手に攻められて、陣地を取られてしまう。丸太が長いとそれなりに面白く、丸太の両端にいわゆる兵隊が2~3人いて、次々に相手とじゃんけんして戦い、勝ち負けが入れ替わり、攻めたり攻められたりするゲーム。丸太が短い場合は一対一の時が多く、その場合はすぐに陣地がとられて勝敗がすぐに決まるゲームです。

このときは一対一ゲームでしたが、いつまでも続いていて、「こんな雨が降っている時でも、遊びを見つけると、その姿勢が崩れない」、「子どもってすごい！」と改めて感心しました。

サトイモ掘り、リース作り、森遊びの日でしたが、森遊びが雨のために制限されて、森は見学だけにし、どんぐり拾いは省略しました。森の丸太で遊び始めると終わりがなくなる。こんな雨の中でよく遊ぶなど大人は感心するだけ。

少しでも時間を見つけると雨を集めて遊びが始まる。雨よけにタープを釣り、大人たちはやれやれと安心したところだったのですが、子どもたちはタープに溜まる雨をどうにかして集めて遊びたいと、タープの先をつかんだり、溜まる雨をタープの下から持ち上げたり、余念がない。雨を受けるにはサトイモを採った後の葉を丸めて水受けにするアイデアなど子ども独自にひらめかせ、しばらく遊んでいました。

お父さんはというと、「子どもを見ていて」と言われて、「ほんとに見ているだけ」で、「何もないじゃない！見てないで、手をつないでスニーカーに泥水が入らないようにしてよ」と叱られ、「はーいっ」と生返事で返す始末。これも一つの光景。俺もそうだったと冷や汗。

雨の中でもやるのかを問いただすために主催者に電話すると、昼過ぎには薄曇りの予想の判断から実施が決定されました。しぶしぶ雨合羽を着込み、出かけました。強いと言うほど雨ではないものの、しっかり降っていました。集合時間には予定の7家族が集まりました。

よくよく考えてみると、キャンプに行き慣れた家族にとっては雨模様も日常のことのように感じるのではないかと思うのであって、雨降りだから行かないという選択肢は無いようです。それより、雨模様でも子どもが濡れるのも気にせず、遊んでいたことでした。

子どもたちは雨のひとしきりなどものともせず、丸太渡りを試み、長靴をぬかるみに突っ込んで赤土が水面から湧き上がる様を楽しむという、極めて幼ない遊びを楽しんでいました。ぐちゃぐちゃ感がなんとも楽しいそうでした。（松戸市 藤田 隆）

